

## こんな支援が必要です。

不登校の子どもの多くは家におり、親も孤立を感じていることは少なくありません。子どもと親が安心できる居場所、つながれる場所、また情報の提供は強く望まれています。相談先で信頼の高かった親の会も望まれています。世帯収入が減ったり、支出が増えたりしているため経済的な支援も望まれています。また、学校や教育支援センターの対応は改善が求められています。

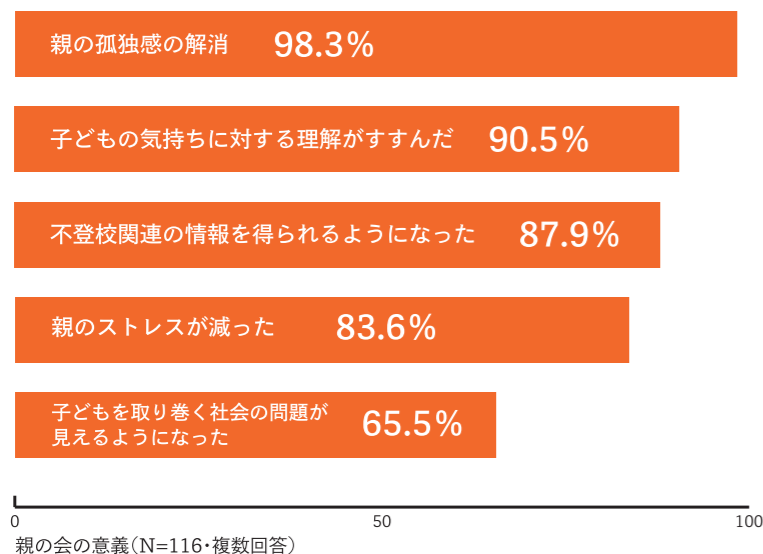
子どもや親が学校以外で安心できる居場所人と繋がる	80.5%
学校の柔軟な対応	76.9%
情報提供(フリースクールや親の会など)	70.9%
経済的な支援	68.0%
相談の機会	58.4%

充実して欲しい支援 (N=640・複数回答)

名称：子どもが不登校を経験した親への全国アンケート調査  
対象：不登校を経験した子を持つ親  
方法：自記式インターネット調査  
期間：2022年10～11月  
回答数：640票

## 親の会にはこんな意義があります！

当ネットワークでは2021年に全国の親の会の世話人を対象に調査を行いました。親の会の意義として、孤立感・不安・ストレスの低減、子どもの理解、親子関係の改善などに貢献していることがわかります。



名称：親の会に関するアンケート調査  
対象：全国の親の会の世話人  
方法：自記式インターネット調査  
期間：2021年9～10月  
回答数：116票

## NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク

日本全国の不登校・登校拒否の子どもと親を支える団体をつなぐネットワークです。

HP <https://futoko-net.org> MAIL [info@futoko-net.org](mailto:info@futoko-net.org)

このリーフレットは公益財団法人キリン福祉財団より助成を受けて作成しました。

知っていますか？親にとっての不登校経験

## 不登校を持つ親の全国アンケート (2022年) 親の全国調査 (2021年)

### 子の変化

学校を休んで心が安定した **68.4%**

子どものストレスが減った **56.1%**

寝起きの時間が乱れて昼夜逆転した **54.8%**

自信・やる気がなくなった **43.8%**

食欲不振 摂食障害など食が乱れた **38.8%**

やりたい学びの時間が増えた **23.9%**

子どもは不登校を経験することで自信がなくなったり、食が乱れたり、つらいこともあるけれど、むしろ無理に登校しないで済むから心が安定したり、ストレスが減ったりもしているのね。

学校や社会への考え方が変わった。価値観が転換した **82.5%**

不登校の原因が自分にあるかもと自分を責めた **66.7%**

孤独感、孤立感 **53.1%**

子どもとの時間が増えた **65.6%**

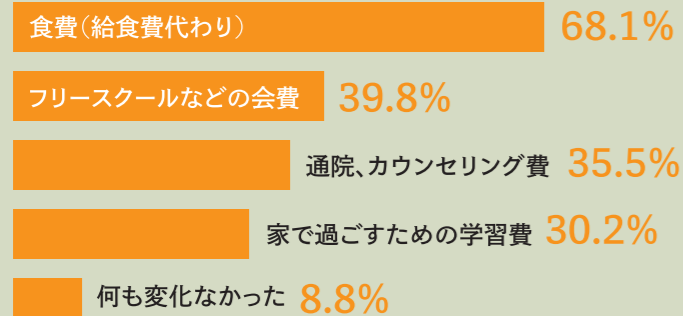
家族との関係が悪くなった **26.4%**

### 親の変化

「消えてしまいたいと思った」と思うくらい子どもの不登校は親にとっても苦しい経験であったりします。一方、同じような経験を持つ親と出会い、学びあっていくと「多様でいいんだ」「普通を疑うようになった」など「学校や社会への考え方が変わった」という親が8割を超えています。大変な経験だけど、親として人間としても成長できた、今となってはかけがえのない経験ということですね。



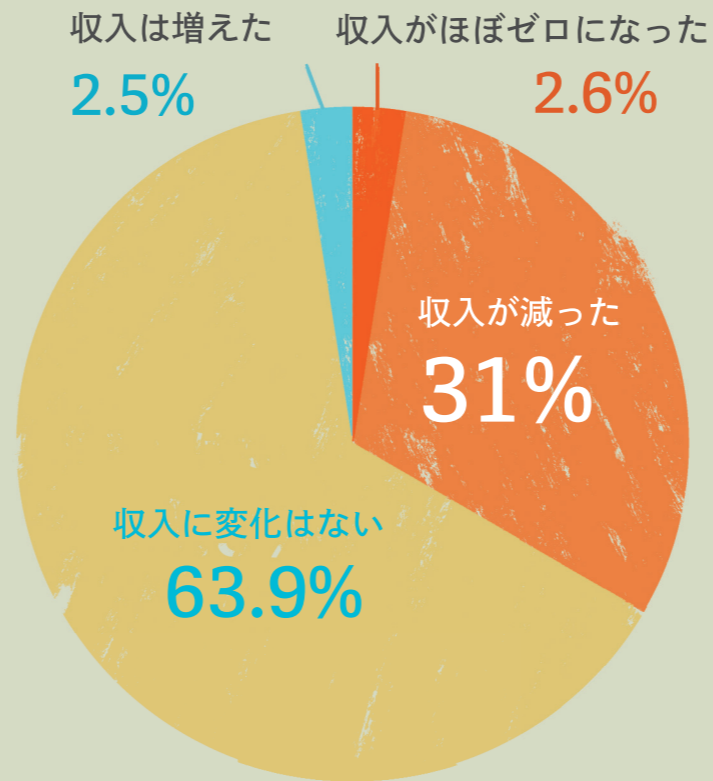
不登校で収入は減っても支出はむしろ増えています。学校給食費を払いながら家で食べるお昼のお金がまるまる増えている家庭もあります。フリースクールには公費支出が無いことが多く、その会費や交通費の負担もばかになりません。



子どもの不登校により増加した支出 (N=640・複数回答)

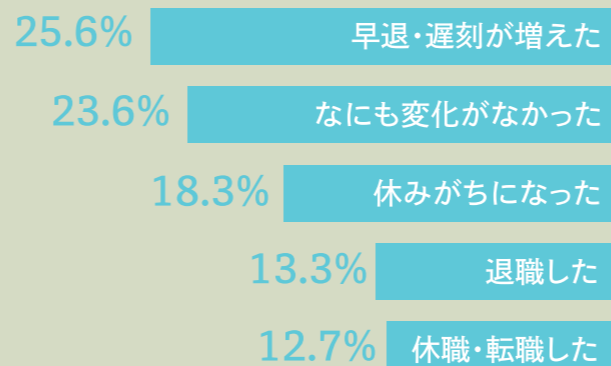
# 親の経済的負担は増えています！

不登校をきっかけに収入が減った世帯が 33.6%と 3分の1を超えています。そのうち 2.6%は収入がほぼゼロになったと回答しており、深刻です。一人親世帯で子どもが小さいと働けなくなることも起きています。



不登校をきっかけとした世帯収入の変化 (n=607)

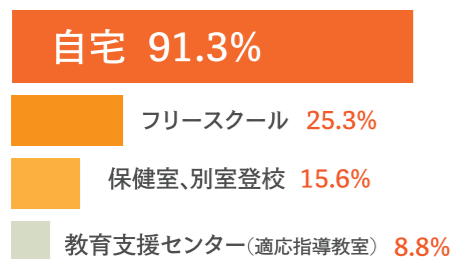
不登校をきっかけに親の働き方にも変化が見られます。早退・遅刻が増えています。休職・転職をして退職につながることも考えられます。



子どもの不登校をきっかけとした親の働き方の変化 (N=640・複数回答)

## 不登校の子どもが主に過ごしている場所 (N=640・複数回答)

フリースクールの数も十分でないし、教育支援センターは居心地が悪いこともあり、圧倒的に主に家で過ごしています。



## 助けになった／ならなかった！？相談先

子どもの不登校を「青天の霹靂」という人がたくさんいます。そんな時、親には頼りになる相談先が欲しいものです。ワラをもつかむ思いで相談に行き却って傷ついたという経験を持つ親も少なくありません。下の表は相談して嫌な思いをしたなど役に立たなかったという回答の方が役に立ったという回答より多かったものです。

公的機関や教職員が並びました。教育行政やその関係者が多く、危機感を抱かざるをえません。親と接する機会が多い教員も多く憂慮すべき状況です。



	助けになった(A)	助けにならなかった(B)	A-B
教育委員会(n=150)	28.0%	72.0%	-44.0
役所の窓口(n=116)	29.3%	70.7%	-41.4
児童相談所(n=76)	34.2%	65.8%	-31.6
担任教師(n=573)	42.1%	57.9%	-15.8



下の表は役に立ったが立たなかったより多かった回答の表です。顕著なのは親の会とフリースクールでした。友人等の数字も大きく、必ずしも世間の考える「専門家」が役立つ訳ではなく、親身になって寄り添う方が当事者が助かることが多いという親の会の実感とも重なる結果です。不登校対策の柱となる教育支援センター、スクールカウンセラーなどはこの差が10ポイント未満でした。

	助けになった(A)	助けにならなかった(B)	A-B
親の会 (n424)	92.7%	7.3%	+85.4
フリースクール (n295)	86.8%	13.2%	+73.6
友人・知人 (n443)	77.7%	22.3%	+55.4
民間の相談所・カウンセラー (n179)	76.0%	24.0%	+52.0